R7 楡木小学校　学校通信
No.２０
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年９月１９日
文責　余宮

廃油回収には毎回たくさんの方々にご協力いただき、感謝申し上げます。楡木 SDGs が進んでいます。

片付けが苦手なのは生まれつき？

２学期、ある朝。１年生の教室をのぞいてみると、すでに片付けが上手に仕上がっているお子さんを目にします。ランドセルと体操服は所定の場所に、机上も整理されており、宿題は提出ボックス。もう、学習の準備が整っているようですね。すばらしい。

私事で恐縮ですが、我が二男の１年生時の姿を思い出しました。担任の先生から「動いた後がわかる」と称されるほどの片付け下手。お風呂に入る前には、ズボン類がほぼ人型に見えるほど完璧な形で残っているほど。何度も来る日も口を酸っぱくするほど叱り、しつけたつもりでも、どこ吹く風。一時的に良くなることはあっても、三日と続かない。あ～育て方を間違ったのか…と嘆きの声しか出てきませんでした。当時は。

でも、そんなときに朗報が。教育評論家の親野智可等さんの話によると、子どもの百人百様のこんな姿は、行動遺伝学の研究で、ほとんどの場合、生まれつきの資質によるものだということが分かった、とのこと。確かに、我が長男は几帳面で片付け上手。まったく片づけない二男とは正反対です。同じ親に育てられて違うということは、生まれつきの資質によるものが大きいといっても過言ではない、ような気が。

でも、そう言われても、親として子どものうちにしつけ直そう、と思わないでもない。いちいち目に付くし、その思いは募るばかり。当然、叱る頻度も強度も激烈に上がってきますよね。ここら辺は、共感していただけるのではないでしょうか。でもこれだと、叱られた子どもはストレスをため込み、その弊害が思わぬところに出てくることが頻発。むしろ、片付けしない時の方がよかったのではないか、と思われることもしばしば。息子は苦しみ、私は嘆く。あ～悪循環だなあ。わかっているんですよ。子は叱られるから直すだけで、本当に直さねばならない必要感がないから長続きしないことも。

親野さんは、「子どものうちなら直る」は迷信だと、次のように述べています。

> 子どものうちに直そうと思いすぎずに、とにかく子どもが安らかで楽しい毎日を過ごせるように手助けしてあげてください。そうすれば、子どもとの関係がよくなり、子どもの自己肯定感も上がります。

なるほど。さらに親野さんは、子どもが苦手なことでも、合理的な工夫をしてやりやすいようにしてあげたほうがよい、と続けます。それでもできなければ手伝ってあげればいいじゃないか、と。一緒にしてあげたり、必要ならば全部やってあげたりしてもよい、とも。その上、やってあげることで自立の妨げになるということも迷信だと述べています。むしろ、優しい手助けは、しっかりした自立につながるのだそうです。

ほ～、こりゃ楽になった。

もちろん、一論考なのですべてをうのみにできるわけではないでしょう。ただ、大切なのは、子どもの自立を促し、なりたい自分への道に寄り添う親としての姿勢なのでしょう。そうすることで、自己肯定感を高めながら、自分のペースで着実に成長し、やがては自立の道を歩む、ということなのかもしれません。蛇足ですが、我が息子は、今教師をやっています。職業柄の必要感に駆られて、片付けくらいはするようになっているようです。ほっ。